

スクリーンホッターライオン

「心は常にチャレンジ精神」 from 豊山中学校

去る三月六日、豊山中学校第六十七回卒業証書授与式が、厳肅な雰囲気の中で挙行され、百二十四名の卒業生が、町長をはじめ、多数のご来賓と保護者の皆さま方に見守られながら、熱き思いを胸に巣立っていきました。

卒業生にとっては、この卒業式が義務教育の最後であり、豊山町で共に育ち、励まし合った仲間との別れの式でもありました。式場西側壁面にはこの一年間彼らが情熱を燃やし取り組んだ生徒会スローガン「心は常にチャレンジ精神」の文字がかかり、はなむけの言葉となっていました。

式では、卒業生を代表して齊木隆介さんが総代として卒業証書を、末永七海さんが代表として卒業記念品を受け取り、緊張の中にも堂々たる立派な態度でした。

その後は、在校生の心温まる送辞を受けて、卒業生の相良佑梨さんが答辞を述べました。三年間の色々な行事・部活動での思い出や、お世話になったお父さんやお母さん、先生方や地域の方々への感謝の気持ちなどを、穏やかな中にも熱い思いを込めて述べ、力強くはばたいていく決意となる立派な答辞でした。

式後の卒業生全員による合唱は、本年度も「大地讃頌」を歌いました。その心のこもった歌声とハーモニーは、まさにチャレンジ精神を再確認させるものであり、本校の伝統の重みを感じさせるすばらしいものでした。

百二十四名の卒業生の皆さまの未来が幸多きものになることを、心から願っています。



第百六十八話

学徒動員と地震

戦争中に鷹来工廠に学徒動員された方のお話です。

昭和十九年四月、旧制中学五年生のとき「学徒勤労報国隊」として鷹来工廠へ動員されました。

鷹来工廠まで自転車を通い、小銃の弾丸を作りました。弾丸の製造工程はいくつにも分かれており、出身地や工員、学徒動員者などで四つのグループに分かれていました。

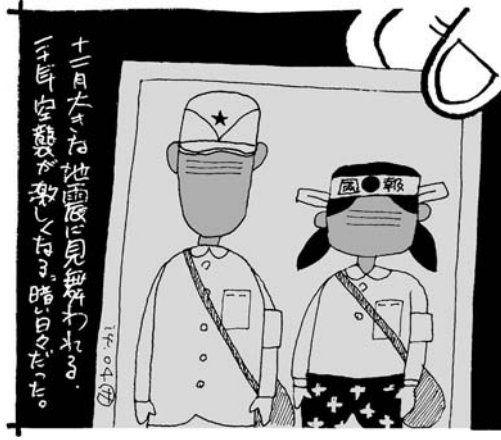
八月になると小牧の塚原分工場に配置換えされました。ここは微用工のほか下級生や女子学生もいました。昼夜二交代の勤務で、小銃弾の雷管を作りました。菜種油と苛性ソーダを混ぜて加熱し、石鹼を作ること覚えました。

昭和十九年十二月七日、大きな地震に見舞われました。工場の建物から外へ逃げ出そうとしても腰がふらついて、真っ直ぐに走れません。

工場の敷地内にあった塚原邸の庭の石灯笼が倒れて板壁を突き破りました。工場の責任者の若い技術将校は狼狽して、大声で防空壕へ入れと叫んでいました。

小牧の町の銭湯の煙突も折れました。幸い小牧、豊山付近ではたいした被害はなかったですが、こ

昭和十九年四月
学徒勤労報国隊に動員。
八月小牧の工場に西四直換え。
下級生や女子はほめた。



れが名古屋南部工業地帯に甚大な被害を与えたマグネチユード八の東南海地震であることは公表されず、戦後知ることとなりました。

昭和二十年になるとB29の空襲が激しくなる状況の中で、三月二十七日、四年生と五年生同時に卒業式が行われました。わら半紙の厚い紙の卒業証書をもたらうとその足で直ぐ工場へ向かいました。

今は昔の物語です。
(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)

まなびすと